

項目 1 学校・学級作り、心身ともに健康な生活

重点目標	○自分で判断できる、他とつながることができる力 ○心身共に健康で幸せな生活を送る力
数値目標	①よりよい行事や、生徒会活動の実現のために、主体的な態度で取り組むことができたと言える生徒を90%以上。（十分できたと言える生徒50%以上） ②目標達成のために、仲間と対話しながら協働的に活動に取り組めたと言える生徒を90%以上。 ③健康で安心して学校生活を送ることができたと言える生徒が90%以上。

1 取り組みの状況

I 生徒の自律した行動の促進

- ・修学旅行では、自分たちで行き先を決め、ルートプランを作成したり、修学旅行の目標やルール決を行ったりと、行事に向けて主体的に取り組んだ。（4，5月）
- ・合唱祭では、実行委員を中心に、よりよい合唱祭を目指して計画・運営を行った。（5，6月）
- ・異学年交流を活発にするために、執行部企画の「新聞文字探し」活動を実施した。体育館で全校生徒が集まり、学年を解いたグループで活動し、交流を深めた。（6月）
- ・学校祭実行委員会を立ち上げ、文化祭・体育祭の最上位目標を共有し、その達成のために何が必要かを粘り強く話し合い、合意形成する活動を行った。運営組織や内容、時程などについて、生徒が主体となった話し合いを継続して行った。（5～7月）

II 快適で温かみのある環境づくり

- ・学級の諸問題を解決するために学級会を複数回開き、課題を共有し、その解決のための具体的な改善策を考え、それぞれのクラスで実行した。（5月～7月）
例）授業の活性化に向けて、机の配置を工夫（教科ごとに配置を変える、ペアで机をくっつけるなど）
課題の提出状況改善に向け、週目標を設定、帰りの会で次の日の課題のチェック活動を実施など
- ・宮中生全員のより良い学校生活実現を目指し、各委員会で具体策を話し合い、決定し、実践した。
学習：学習についての学級会・イベント開催 給食：給食中のインタビュー、掲示物作成
体育・環境：スポーツ day の開催（学級・学年・男女） 図書・掲示：ビブリオバトルの開催
保健：生活チェックと健康維持に関する掲示物作成

III 人権教育・ポジティブ教育の活用

- ・合唱祭の後に、他クラスや自分のクラスメイトに「ありがとうメッセージ」で感謝の思いや相手の頑張ったところを書いて交換した。（6月）
- ・2年生対象に、町保健事業の「心の健康づくりセミナー」を活用し、『ストレスの仕組みや対処法・SOS の出し方』について学び、安心した生活を送るための知恵の一つを学んだ。（6月）
- ・スクールカウンセラーによる全員面談を実施し、相談しやすい環境をつくった。（6，7月）
1学期は3年生、1，2年生は2学期以降実施予定である。
- ・教員対象にスクールソーシャルワーカーを講師に招き、「不登校対応について」の研修を実施予定。不登校対応の概論と、本校生徒についての対応のアドバイスをいただく予定。（8月）

IV 望ましい生活習慣の定着

- ・養護教諭とスクールカウンセラーによる個人健康観察表を毎日実施し、その情報をもとに教育相談やスクールカウンセラーとの面談につなげるなどして問題の早期発見、早期対応に努めた。
- ・委員会による生活チェックや掲示物などを通して、自分自身の生活を振り返らせた。
- ・食育に関する資料や栄養教諭による授業を通して、適切な食事のとり方について学ばせた。（5月）
- ・メディアの適切な利用の啓蒙のために、以下の取り組みを行った。
①年度初めの PTA 総会において、生徒指導主事から保護者に対して、メディアの適切利用の呼びかけや家庭の協力を依頼した。（4月）
②「我が家のメディアルール」を生徒と保護者で作成し、学期末に振り返りを行った。（5～7月）
③警察のスクールサポーターをお招きし、「ひまわり教室」を実施し、インターネット使用における危険性や、注意点について講演をしていただいた。（7月）



【学校祭に向けた学級会】



【SOS の出し方講座】

2 目標の達成状況

アンケート結果	① … A 49 B 44 (93) C 7 D 0 (%)	評価	B
	② … A 59 B 39 (98) C 2 D 0 (%)	評価	A
	③ … A 68 B 23 (91) C 7 D 2 (%)	評価	A
総 括			
①に関して 肯定的評価をする生徒は90%を超え、十分できた（A 評価）と答える生徒は目標に近い49%となった。学校・学年行事や生徒会活動など様々な場面において、生徒の自己決定する場면을積極的に与えてきたことの成果であると思われる。 ②に関して 肯定的評価が98%と高い数値となった。定期的に学級会を実施し、自クラスの課題解決に向けて話し合い、決定した具体的対策をみんなで継続して行えたことが数値に表れていると考えられる。また、行事や生徒会活動においても生徒たちが対話し、合意形成し、実行する場面をしっかりと確保した成果だと思われる。 ③に関して アンケートの結果を見ると、A 評価は68%と高く、肯定的評価も91%で目標に達している。今後も引き続き、生活日記や各種活動の振り返り、感想等も含め、生徒の様子に対してアンテナを高くして指導していきたい。			
改善策			
①②に関して 特に①に関しては、B 評価の生徒をA にするのが課題である。そのために、リーダーだけではなく、フォロワーの生徒にも、当事者意識をより強く持たせる必要がある。なにか物事を決定する際に、全員が自分の意見を持って発言し、話し合い活動に取り組ませることで、生徒の主体性や当事者意識は生まれてくると考える。生徒同士の対話だけではなく、教師と生徒の対話も十分に行い、話し合いが苦手な生徒の支援も必要である。自己決定の場の提供と、対話活動の充実をさらに進めていきたい。 ③に関して 否定的評価の生徒に対し、声かけや面談などの機会を設け、改善に努める。メディア使用に関しては、引き続き家庭と連携して、適切なメディアとの付き合い方について指導を続けていく。			

【評価基準】

A：数値目標達成 B：数値目標達成率75%以上 C：数値目標達成率60%以上 D：数値目標達成率60%未満